

山都町竹資源活用協議の紹介

会について

本協議会（会長・藤本完一 山都町入佐、事務局は島木のお店内）は、町内全域に広がる竹資源を加工・製造し、利用推進を図り6次産業化を目指す取り組みにより、竹資源の利活用を推進することを目的として、平成24年12月に組織されました。

山都町は自然豊かな町で、未利用の資源が多く存在します。農林業を基幹産業とする町では、放置竹林が問題化しており、鳥獣害対策も含め効果のある竹林整備の実施が急務となっています。

そこで、放置竹林の再生に向け、竹を粉砕するなどの加工を通して、農地還元する稲作や野菜栽培などの農業と一体化させて竹資源の利用普及を推進しながら、竹林管理・伐採事業を行い、



農林産物の付加価値を高め、地域農林業の生産性向上、農林産物のブランド化を図る取り組みに繋がりたいと考えています。

経過

東京のNPOが竹粉による6次産業化事業の機械開発及び実証試験研究を行い、平成22、23年と農林水産省の「緑と水の技術革命事業（6次産業化関連）」として認可され、機械開発が行われてきました。

同24年、試験的に山都町の数名の稲作農家でこの竹粉を利用した稲の苗づくりをしたところ、根の張りが注目され、くす米も少ない傾向がみられました。また、花卉農家、野菜農家において苗作りを行った結果、手ごたえを実感しました。

同24年度の農水省による6次産業化のモデル事業として採択



6月5日 大野 山崎氏ほ場 表面抑草試験

設整備を行いました。生産の現状

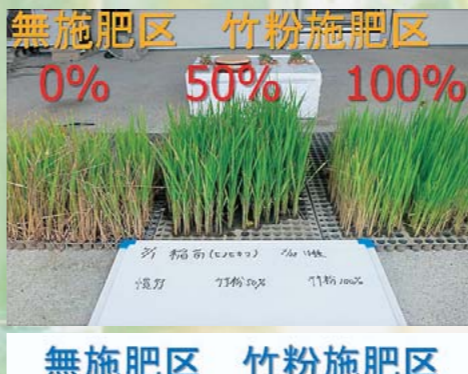
試験栽培

6月10日 入佐 藤本 表面抑草試験



され、全国で3ヶ所内の一つとなり、本事業の実現可能性の高い地域として島木自治振興区を推薦し、11月16日の総会で審議を行ったところ、合意が得られ、島木保育園跡地を利用して、25年3月に農林振興課の支援を得て施

無施肥区 竹粉施肥区 0% 50% 100%



無施肥区 竹粉施肥区 0% 50% 100%

熊日新聞 平成25年6月15日



昨年、3月から竹林伐採を開始、試験的に試し削りを行い4トン製造。うち3トンを春の稲栽培や野菜作付け用に配布。日量3、4百キロは生産可能。

孟宗竹の伐採時期について、梅雨時期も伐採可能だが水が多く乾燥日数がかかるため、夏場は5、6年生の竹を削る。竹材の材質と年生については、年成が若い竹は水分が多く、軟すぎて削りにくいことがわかった。特に4月以降の竹は水分を上げるため9月までの若竹は避ける。竹によつては雑菌が付着しており、現状では手洗いを行ってのがコスト高。今後、ならかの手だてが必要。

畜産においても、糞尿の臭気軽減されたり、養鶏の雛の口スガが少なくなったりするなどの効果が出ています。

天候による竹粉製造については、製粉業では常識であるが、湿気が多い雨の日などは粉が水分を吸収するため作業能率が極端に悪いことがわかった。

※山都町は県下1の竹林面積（1300ha）を持ち、筍生産が盛ん。県や町の竹林整備推進事業等を活用するなどして、原材料の調達の見通しが立ちつつあります。

もとりモンプロジェクトに採択され、景観整備、資源循環、地域の内発的産業興しの優良事例として、新聞、テレビなどのメディアで取り上げられました。

している。水田用の実験中、大面積は難しいが粉でもまけないことはないが、散布機械を検討中。今後、家庭菜園を含め竹粉の販路拡大を考えているが、確かな竹粉の施用基準がないため、稲の育苗に欠株がでたり、作物によつては竹粉を入れすぎると窒素飢餓になるなど、作物毎の施用基準の確立が必要であるため、作物試験栽培を継続していく。

作物試験栽培の結果について

矢部試験地 川上光喜氏によ



竹粉100%の稲 慣行栽培の稲



竹粉無し 竹粉有り

ると、水稻に対する竹粉の効果は、登熟、粒張り、食味において向上する傾向がみられ、試験農家の平均収量が向上した。矢部地区大野の山崎氏のほ場をみて、効果を認める人がいる。しかしながら、優位性を確認するためには最低3年ほど継続することが望ましく、特に酒米に効果があるのではないかと期待していること。

家庭菜園においては、人参、大根、里芋、こんにゃく、ミョウガ



竹粉施肥区 無施肥区



撮影日 11月20日 竹工場前畑

水稻調査結果 登熟・粒張り・食味

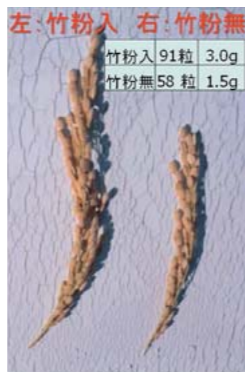
・登熟が良く、粒張りが良く、食味も高い傾向にある。（熊本県山都町水稲農家10戸平均）

試験区	種数	全収量	完全収	しいな	1穂収量	登熟歩合
竹粉有	234	20296	14715	5581	872	72.7
竹粉無	234	20865	14836	8029	884	71.5

竹粉施用区						
番号	22	21	20	19	18	17
割合	2.1%	11.1%	43.8%	26.1%	16.6%	0.5%

竹粉無施用区						
番号	22	21	20	19	18	17
割合	1.8%	10.4%	41.3%	28.6%	17.4%	0.6%

品質評価値	蛋白	蛋白CM (α15.0)	蛋白DM	水分	アミロース
72.9	6.5	6.9	7.6	15.0	19.3
71.4	6.7	6.7	7.9	15.0	19.2



左:竹粉入 右:竹粉無 竹粉入91粒 3.0g 竹粉無58粒 1.5g



大豆 6月16播種、7月22日（立前に竹粉散布） 15枚目の時に



竹粉施肥区 無施肥区

チリも積もれば山都成る!



左:竹粉無 中:竹粉入 右:竹粉入(橋本作)



撮影日 3月9日 竹工場前畑



撮影日 11月20日 竹工場前畑



竹粉施肥区 無施肥区

JA上益城の野菜部会や地域の座談会に呼ばれ、竹粉の試験結果の報告を行っており、口コミで評判が広がり、くま

野菜ごとの施肥量やマニュアル作成が必要で、そのためには県の農業研究センター、普及所、JA、矢部高校と連携しながら、多くの品目で試験栽培を行う必要があります。

今後の展開について 6次産業化にむけて、実証試験をしながらパイロット事業として1年を経ようやく内容が見えてきました。

問合せ先 協議会 副会長 野口慎吾 携帯080-8554-20203